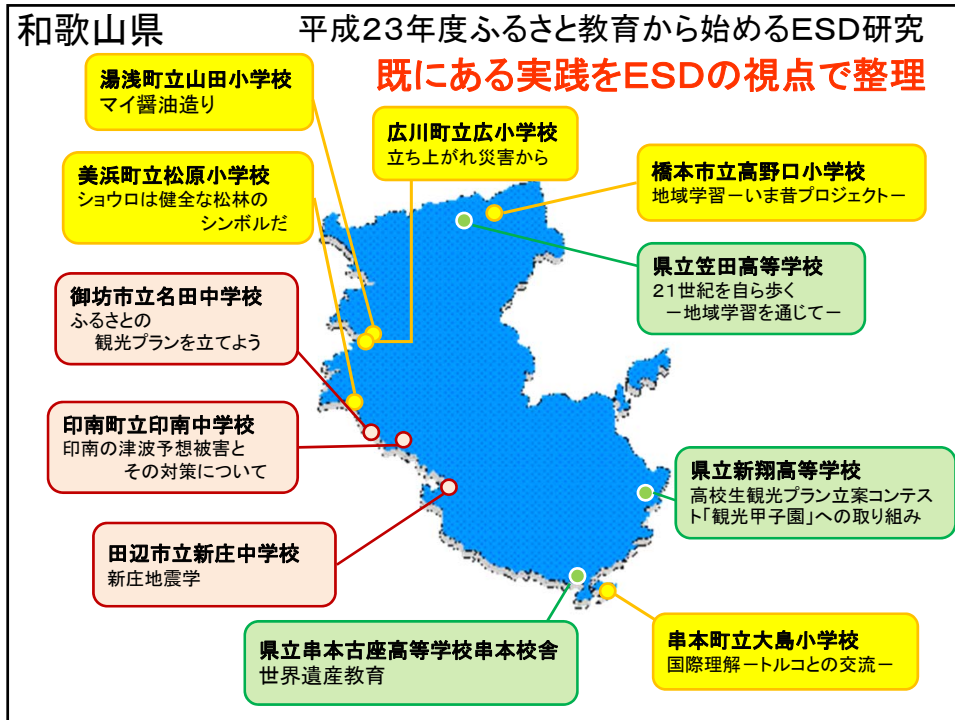


## ユネスコスクール以外の学校でのESDの取組

1. 埼玉県  
埼玉県立総合教育センターでは、ESDの推進を目的にするとともに、研究事業テーマの一つに設定している。
  - 川口市立戸塚南小学校：環境教育を教育課程に位置付け、学校カリキュラム、学年カリキュラム、学級カリキュラムの中で実施している。
  - 熊谷市立江南中学校：農業体験活動を通して自然を守ること、農業の大切さ等の理解を深め、体験後には新聞づくりを行い、掲示発表することで共有化を図っている。
  
2. 神奈川県  
三浦市では、平成13年の第4次三浦市総合計画において、「みうらっ子」を育てる義務教育の充実」を挙げ、地域の自然、産業、地理、暮らしなどを、体験を通じて学ぶ「みうら学」のカリキュラムを総合的な学習の時間等を利用して充実することを施策の1つとして、人材育成と教材開発を行っている。  
中教育委員会（平塚市、大磯町、二宮町、伊勢原市、秦野市）では、10年次研修にESDに関する研修を約10年間続けて行っている。その中でカリキュラム開発、教材開発を行っている。
  
3. 愛知県
  - 東浦町立緒川小学校：総合学習「生きる」をESDの視点で見直し、学校ぐるみで取り組んでいる。
  - 一宮市立葉栗中学校：伝統行事を見つめ地域を考える生徒の育成。
  - 愛知県立愛知商業高等学校：地域に密着したマーケティング活動を推進するESDの実践に取り組んでいる。
  - 豊田市立土橋小学校：環境に配慮した校舎改修を行い、環境モデル都市である豊田市と協力し、単なる校舎改修にとどまらず、教育と連動した環境学習型エコスクールとして研究を進めている。
  
4. 和歌山県  
県内の多くの小・中・高等学校が、各地域の特徴・特色を題材に取り上げた地域学習「ふるさと教育」を展開し、ESD学習の枠組みを取り入れている。
  
5. 鹿児島県  
龍郷町では、環境教育プロジェクトを発足させ、学校における総合的な学習の時間を中心に、「地球の未来を展望して生きるという人間の生きる教育」等を重点として、各種事業を推進している。

（出典：埼玉県立総合教育センター資料、愛知県総合教育センター資料、豊橋市立土橋小学校概要、国立教育政策研究所資料、鹿児島県教育委員会紀要）



**(4) 事例の概要**

ふるさと教育から始めるESD研究会 協力校における事例概要

No.	学校名	単元名	主な内容	要素						重視する能力と態度						
				① 相互性	② 多様性	③ 有限性	④ 公平性	⑤ 責任性	⑥ 協調性	① 批判的思考力	② 予測・計画	③ 多様な総合的	④ コミュニケー	⑤ 協力	⑥ つながり尊重	⑦ 責任
1	橋本市立高野口小学校	地域学習ーいま昔プロジェクトー	地域文化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2	湯浅町立山田小学校	マイ醤油造り	地域産業食育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3	美浜町立松原小学校	ショウロは健全な松林のシンボルだ	環境	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4	串本町立大島小学校	国際理解ートルコとの交流ー	国際理解	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	御坊市立名田中学校	ふるさとの観光プランを立てよう	観光	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6	印南町立印南中学校	印南の津波予想被害とその対策について	防災	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	田辺市立新庄中学校	新庄地震学	防災	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
8	笠田高等学校	21世紀を自ら歩くー地域学習を通じてー	地域遺産	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
9	串本古座高等学校串本校舎	世界遺産教育	地域遺産	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
10	新翔高等学校	高校生観光プラン立案コンテスト「観光甲子園」への取り組み	観光	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
11	広川町教育委員会	広小学校「総合的な学習の時間」立ち上がれ災害から	防災	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

## 受験教育から文化・地域づくりの教育へ 文化継承から文化創造の教育へ

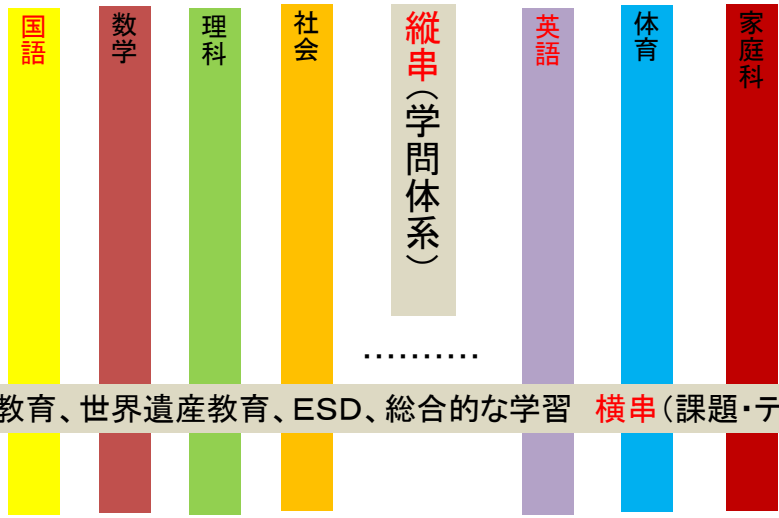
- (教師教育) 1年、5年、10年、20年で **各地域で今後作成**



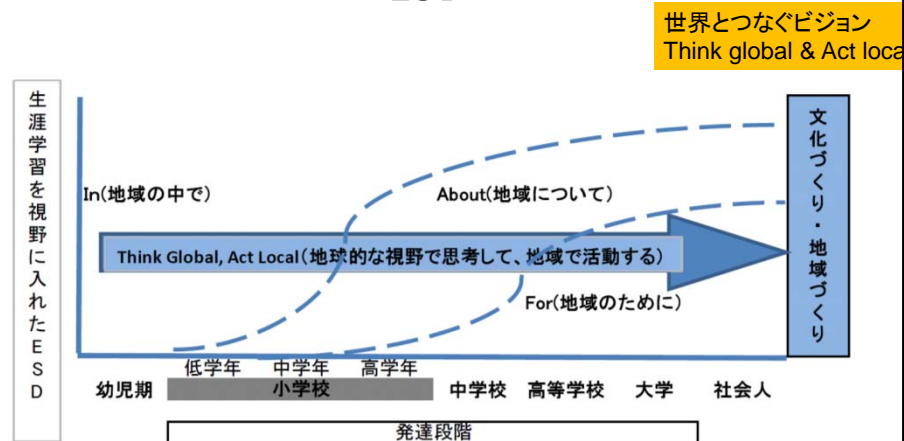
教師・児童生徒・地域の人・専門家の協働で作成



## これからの教員の資質・能力の向上



## 生涯学習を視野に入れた発達段階に応じた地域(ふるさと)と世界をつなぐ ESD



## 教師教育

- カリキュラム開発(他教科との連携)
- 教材・教具の開発(地域の教材・教具)
- 指導法の開発
- 評価方法の開発
- 学校外施設・人材を利用するコーディネーターとしての資質の育成
- 教える技術・能力と育てる(支援する)能力
- ESD(生きる力)を実践できる教師の育成

## 三浦市総合計画 ～三浦 ニュープラン21 ～で定義された「みうら学」

- 三浦市では、第4次三浦市総合計画を平成13年3月に発表した。この計画では、三浦市が目指すべき将来像とそれを達成するための三浦市固有の基本目標及び施策の大綱を明らかにしている。基本計画の中では、まちづくり政策の一つとして「**一体感を育てる人材育成**」を掲げている。これは、三浦市のことをよく知り、愛郷心や公德心をもてる青少年の育成に向けて、市民が一体となって取り組む環境づくりを進めることを提唱している。その中の具体的な施策の一つに『**みうらっ子**』を育てる義務教育の充実があり、その基本方針として、次の3点があげられている

### みうら学(地域学)

- 三浦市のことをよく知り、愛郷心や公德心をもてる青少年の育成(三浦市の基本計画)
- 『みうらっ子』を育てる義務教育の充実
- 地域の自然, 産業, 地理, 暮らしのことなどを, 体験を通して学ぶカリキュラム
- 地域の素材を生かしたカリキュラムや教材・教具を開発できる環境をいかにつくるか。
- 開発したカリキュラム等をいかに共有し生かすのか。
- 単元構想の理念が必要

## 研究員プログラム

- 三浦市教育研究所は、地域の素材を生かした「みうら学」のカリキュラムや教材・教具を開発できる教員を養成するために、みうら学研究員を公募し、5名の研究員を任命した。そのプログラムは、国立教育政策研究所と三浦市教育研究所の連携によって開発され、研修期間は1年間で6回の研修会を行った。研修プログラムは、アースシステム教育の理念に基づいて計画された

## 開発された単元(約35件)

- 「三崎小学校 校歌～清明富士を天に～」(山美先生)
- 「松輪さば」(札内先生)
- 「外来生物概論」～多様性の価値を考える～(辻先生)
- すてきな江奈湾「ごみをなくそう大作戦」(石渡先生)
- 「三崎の蔵の謎を探る」(渋谷先生)
- 「ナガサキアゲハから地球温暖化を考える」(渋谷先生)
- 「三浦で生まれたみうら寿司」(松田先生)
- 「三浦の自然」(福田先生)
- 「三浦の寺 ～三崎にお寺が集中している謎にせまる～」(丸川先生)
- 「三崎の名物 マグロ」(岡本先生)
- 「テングサから心太 ～地域に伝わる知恵を学ぶ～」(大高先生)
- 「三浦の砂」(三留先生)
- 「検地があった、三浦市にも」(田口先生)
- 大根の一生(宇都宮先生)
- 中世の城の役割～三浦城を視点として～(岡本先生)
- 三浦の宝 世界の宝 チャッキラコ(松田先生)
- 三浦のメダカ(福本先生)